

【実践事例（Ⅰ）】

（岩沼市立玉浦中学校）

避難場所までの避難経路を確認し、避難経路図を更新

学校の状況

- 東日本大震災では、校舎の1階まで津波が浸水し、さらに内陸まで津波が到達している。
- 学校は海岸から約2kmに位置し、標高は約2mである。
- 第四次避難場所として、校地からさらに内陸へ約1.5km離れた高さ約8mの仙台東部道路と約2.8km離れた岩沼市民会館に設定を検討している。【徒歩の生徒は仙台東部道路、自転車の生徒は岩沼市民会館とした】

取組方法

1 大津波災害を想定した第四次避難訓練（校地外の避難場所の設定）

校舎の高さ以上の津波を想定し、校地外の避難場所に避難するまでの行程と時間を計測した。時間はそれぞれ30分で到着した。

- ・徒歩：内陸にある高速道路入口
- ・自転車：内陸にある指定避難所（岩沼市民会館）及び校外の避難経路を確認



2 災害時の交通事情等を考え、代替のルートを検討

訓練を通じ、災害時の交通事情を考えて、代替のルートも検討しておく必要があることから、地域の関係機関等との検討の上、生徒や保護者への周知を予定している。

3 避難ルートの「見える化」

現在、学校では、上記のような津波があった際の避難場所とそのルートを、生徒や教職員だけでなく、来校者にも分かりやすいように、校舎内に掲示している。

ルート等が変更になり更新された際は、改めて掲示等でも周知を図っていく。